一九八三年の保育に向って

河井多喜子

右方（みぎて）に富士、左方（ひだりて）に三浦半島、正面に伊豆大島をのぞむ鎌倉の海で、おさなごたちは、きらめく陽を浴びて、喜々として、波に戯れ砂にまろぶ。

波がしらはくだけて、さーっと、岸辺に寄せてはかえして……。

幼児教育も経営面、教育面、その他いろいろな面に、大波小波が寄せてはかえし、集中拡散を繰り返す。

教育とは？

次代に何を伝え、何を遺せるか？

世界へむかう意識を育てるのには？

自分には、どのようなことが出来るか？

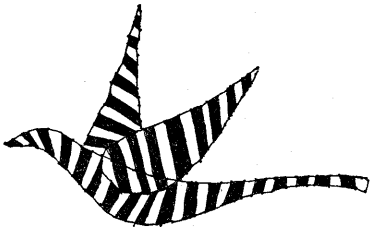
「私たちは肉体的条件を克服して、内面的なものを他

に及ぼし、美しい姿勢を、子どもたちに見せるのです。」と、老練の教師は、やさしいもの腰と温いまなざしで説かれて、聞く者の胸を打つのです。（世界へむかう拡散の意識に通ずる。）

人生には、いろいろな憂い恐れ苦しみがあり、胸の中では自己との戦いも渦をまく。それらを克服するのに忍耐、思慮、工夫などがうまれ、希望の光がさし、心の自由を得、努力を重ねているうちに、心が通い合う真の友が出来ることを教えていただく。

世界中の人々と肩をふれあい、渦をまき、またほぐし、愛をこめて、にっこり身をかわしたりするのは子どもたちを前にして見出すことも。

人智学的設計と云われる、流れるような、美しい線で結ばれた建築のすばらしいこと、木目も美しい内部のやわらかなイメージ、教師と園児との触れあい、又は児童との温い血の通いあう学習にふれ、心の高まりと同時にほぐれるような思いで引き込まれていく。教育の原点である魂の問題は篤い信頼関係によって育まれるようです。

天地自然と人との営み、人と人との交りの中に、信仰、愛、祈りなどを肌で感じ、これを心の糧として教育にあたり、日々の歩みの支えとしたいと思うのです。

（聖路加幼稚園）